

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	苫小牧駒澤大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	トマコマイコマザワダイガク
	大学等名1(代表大学等)学校所在地	北海道・東北地方
	大学等名1(代表大学等)学校種別	私立大学
	大学等名2(連携大学等)	
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	
	大学等名2(連携大学等)学校種別	
	科目名	インターンシップA、インターンシップB
	学部・研究科等名	国際文化学部
	担当教職員名・役職	川島和浩(教授)田崎悦子(准教授)
受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数	10	
受入企業等数	5	
受入企業等名	苫小牧市役所、北海道庁、JT北海道苫小牧支店、近畿日本ツーリスト北海道苫小牧支店、北海道新聞苫小牧支社	
インターンシップの分類	6.低学年(大学1年次～2年次程度)からのインターンシップ 9. 中小企業でのインターンシップ 10. 地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ	
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容(記述欄)	
1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	苫小牧市役所では、地元商店街に対するアンケートの実施とその分析、スポーツイベントの企画立案、児童センターでの幼児・児童の見守りを行った。北海道庁では振興局でまちづくり対策や児童福祉業務を行った。新聞社では記者と同行して取材対象者に対するインタビューおよび写真撮影を通じた紙面づくりを行った。旅行代理店では店舗のPOP作成や旅行行程作りなどを行った。	
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	2.当該インターンシップは、キャリア教育科目として実施している 5.当該インターンシップは、選択必修科目として実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	2年次～4年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	2
2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	本学では、キャリア教育の拡充のために、平成28年度からインターンシップを選択必修科目に変更した。インターンシップA(実質5日間以上)を2年次から、インターンシップB(実質10日間以上)を3年次から実施している。この場合、インターンシップAを履修済みの学生のみがインターンシップBを履修することとし、多様な業種での就業体験の機会を確保している。	
要素	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法を身に付ける授業等を行っている 2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている 3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容(記述欄)		

③	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している
	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップを履修する学生に対して、キャリア教育科目に新設した「インターンシップとビジネススキル」を履修する指導を行い、事前学習の拡充化でインターンシップでの学修成果を向上させるカリキュラムを展開している。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	研修学生には、研修期間にわたって大学独自に作成した「日誌」を毎日書くことと、その記述した日誌を受入担当者に見せて確認印をもらうように指導している。毎日の業務の振り返りを日誌を通じて行い、研修後に、その日誌に基づいて研修レポートを提出させている。その後、研修報告会を実施し、各就業体験に伴う情報の共有を図っている。
要素④	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ担当教員が、学生のインターンシップ研修期間中に受入先を個別訪問し、直接学生から研修状況の聞き取りを行うと同時に、受入先担当者からも当初の実務研修プログラムとの変更の有無を確認し、研修評価を把握している。
	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている 3.インターンシップによる到達度を具体的に示した評価基準(例:ルーブリック)を整備し、学生及び教員で共有している
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
要素⑤	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップが終了した段階で、研修学生に対して、インターンシップに係るアンケートを実施し、研修学生の満足度や自己の目標設定に対する到達度を記述・評価してもらっている。また、受入先担当者からは研修学生に対する「事後評価票」を記入・提出してもらい、今後の研修学生に対する就職支援の助言活動を行っている。
	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間5日間以上
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容(記述欄)	
要素⑥	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	「インターンシップA」科目では実質5日間以上のインターンシップを実施している。なお、平成29年度については「インターンシップB」科目を受講する学生はいなかった。
	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとつての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している 4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している 5.企業等と協働して作成した評価シートを活用し、具体的な効果を数値化して測定している 6.企業と協働して、PDCAを実施している
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
要素⑦	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップの実施に際しては、学生の希望する業務内容を確認したうえで、受入先担当者との間で実施プログラムの調整や打ち合わせを行い確定している。受入先においては、研修後に「事後評価票」を用いて学生の評価をお願いしている。また、学生には、研修後のアンケートを通じて当該研修内容に係る意見や感想を提出してもらい、次年度のプログラム作成に役立てている。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	平成30年度「インターンシップA」と平成30年度「インターンシップB」 http://192.168.3.25/Syllabus/s_list2.asp?srch=1&div1=304
問い合わせ	大学等名	苫小牧駒澤大学
	担当部署名	教育サポートセンター
	担当者役職名	教授
	担当者氏名	川島和浩
	電話番号	0144-61-3121

ヒ
先

メールアドレス

kz03691@e.t-komazawa.ac.jp